

令和7年度 後川内小学校 自己評価書及び学校関係者評価書

学校経営ビジョン： 「高め合い、支え合い、一日一步前進する学校」を目指す。

評価基準 4～期待以上（90%以上） 3～ほぼ期待通り（70～90%） 2～やや期待を下回る（50～70%） 1～改善を要する（50%以下） ※項目の赤字は、本年度新たに加えたり、修正したりしたもの

	評価項目	評価指標	学校評価に向けた具体的な数値目標	方策・手立てについての反省	評価		学校関係者評価コメント
					自己	学校関係者	
Ⅰ 確かな学力の育成	1 主体的・対話的で深い学びの実現 ・個別最適な学び ・協働的な学び	○「分かる」まで教え「できる」まで見届ける授業改善を行う。(個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実)	○ 個に応じた少人数指導の充実を図り、授業が「分かる」「できた」と答える児童を87%以上にする。	○ 本年度は町の授業研究会が本校で行われるため、職員研修で主に「個別最適化な学び」「協働的な学び」について研究し、管理職を含む全員が授業研究に取り組んだ。児童の評価は84%であった。	3.4	3	ほぼ目標に到達したということで、確かな学力の育成が図られたと評価できる。
	2 授業改善、教員相互の学び合い ・校内研修(授業研究)	○ 研修の成果を授業力向上に生かすことで、児童の学力向上を図る。 ○ 高原町授業スタンダードの推進 (ICTの活用)	○ 各種学力テスト等で、県・全国平均以上の正答率を目指す。 ○ 教職員の授業自己評価90%を目指す。(授業力UP期間)	○ 本年度もICTを積極的に活用した。「個別最適な学び」「協働的な学び」を支えるロイノートというICTソフトを積極的に活用した。教師の自己評価は90%を達成した。	3.5		
	3 読書活動の推進	○家庭と連携し、読書習慣を育成する。	○ 児童の読書目標達成【低学年120冊・中学年120冊・高学年140冊】	○ 図書担当の職員が多くの図書イベントを行ったことにより目標に到達した。	3.1		
Ⅱ 心の教育・生徒指導の充実	1 望ましい行動様式の確立 ・スクールワイド PBSの推進	○ 日々の生活における基本的な行動様式が日常的にできるように指導を継続する。	○ 学校評価アンケートの児童調査において、あいさつや時間を守ることができると答える児童87%以上を目指す。	○ あいさつは85%の評価であったが、もう少し高くてもよい印象がある・時間を守ることについては92%と児童の評価は高かった。	3.4	3	心の教育は、現代の子ども達において非常に重要である。素晴らしい評価となっている。
	2 主体性の育成	○ ピア・サポート活動の推進と、うしろキッズの活動等の活動機会を通して、主体性を育む。 ○ SWPBSの推進(ほめて育てる)	○ 学校評価アンケートの児童調査において、行事や集会活動等に主体的に取り組むと答える児童を87%以上にする。 ○ 職員のSWPBSの充実度85%以上を目指す。	○ 学校での行事や集会活動等での児童の取組に関しては95%の達成率で、非常に高く、職員から見ても素晴らしい取り組みや態度が見られた。 ○ SWPBSの職員評価は87%を達成。「ほめて育てる」よりよい方法を更に模索していく。	3.6		
	3 人権教育の推進	○ 地域と連携し、教育相談や「育みの会」を充実させ、いじめ・不登校を未然に防ぐ。	○ いじめ・不登校解消率100%を目指す。	○ いじめ・不登校は無かった。(100%)	3.6		
Ⅲ 健康安全の推進・体力向上	1 体力・運動能力の向上	○「スクールスポーツプラン」に基づいた運動能力の向上と運動量確保の実践を推進する。	○ 「スクールスポーツプラン」の実践と各項目、前年比3～5ポイント向上を目指す。	○ プランにのっとり、体育科の授業を主に体力向上を図ってきたが、全体的に体力は向上しているものの「柔軟性」「敏捷性」に課題が残った。	3.4	3	危機管理能力の育成は、不測の事態に備え、命を守る重要な能力だと考える。いかなる場合、場所にしようとも危険を回避できる意識の向上が今後も望まれる。
	2 危機管理能力の育成	○ 危機に関して、児童が自ら考えて行動できる力を育てる。(避難訓練・環境の充実)	○ 危機に関して、自分で命を守る行動ができたと答える児童100%を目指す。	○ 避難訓練・避難行動とも関係機関からも賞賛されるほど良好であった。児童評価は95%であったが、自分からよりよい避難行動ができるようになりたい。	3.8		
	3 保健指導の充実	○ 養護教諭による保健指導をもとに自己の健康を守る意識と実践力を高める。 ○ 日々の給食指導や食に関する指導を推進する。	○ う歯治療率100パーセントを目指す。 ○ 保健指導・食育指導の充実度85%以上を目指す。	○ う歯治療率100%には届かなかった。 ○ 食に関する保健指導は児童92%、職員82%と、やや好き嫌いに関する反省が挙がっていた。	3.4		
Ⅳ 「信頼される学校」づくり	1 中学校、家庭、地域との連携「ひと・もの・ことに感動の1年」	○ 小・中学校・地域合同行事の充実 ○ 保護者・地域とともに、閉校に向けて、児童生徒・保護者地域の連携を図る。	○ 小中合同の行事、保育所等との交流会活動、地域行事へ関わろうとする児童の育成を目指す。充実度90%以上を目指す。	○ 校内・小中の行事等には積極的に関わっていた。運動会は特に大成功であった。 ○ 地域への行事は学年や個人により異なるようである。なかなか地域と連携する行事の企画も少ない点も課題である。	3.2	3	すべての行事が最後となったが、盛大な閉校式は児童、教職員とも非常に感慨深いものとなったと思う。
	2 コンプライアンスの徹底と非常時対応の充実	○ 教職員としての自覚を高め、不祥事ゼロを目指す。 ○ 訓練等により、非常時の対応を徹底する。	○ ハラスメントを含む、法令違反等の不祥事0を目指す。 ○ 危機管理マニュアルの見直しや防災、防犯等の訓練を充実させる。	○ 不祥事案件は0であった。 ○ 防災教育に関すること、避難訓練の充実には特に力を入れ、職員が入念に場合を想定し、実際に模擬訓練を行うなどした。	3.8		

【総評】	1	本年度の取組について ・ 多くの方の関わりで児童は明るく元気に過ごすことができている。二極化などの課題は見られるが、しっかり指導していただいているので子どもたちの力が付いてきている。
	2	次年度への改善に向けて ・ 新しい学校に行く心構えについて触れ、できるだけギャップを与えないような備えを教育活動に位置付けたい。